

5回目の春～福島からの私信

はんざわ あつこ
半澤敦子

(福島YWCA 会員・日本YWCA com7300 委員長)



「ここは被差別地域だからね」。2年前の今頃、県外からの支援者の言葉に『やはりそうなんだ、だからこそ福島は原発立地地区となりえたのだ』と今更のように再確認した私は、なんとおめでたい人間だろうか。東北地方のなだらかで丸みを帯びた山や、赤茶色の

石がころがる河原の自然に恵まれて、それだけで幸せだった。井の中の蛙である。

それでも日々の生活や社会の中には自分の知らない動きがあるとは薄々感じていた。理不尽な出来事があっても流されて生きているようにも感じていた。だから自分なりに社会運動にかかわって、精一杯抵抗していたつもりだった。しかし、あの大地震と大津波による東京電力福島第一原子力発電所事故で、現実的には問題を先送りしていただけたらと思われ、その思いは4年経っても頭から離れない。

自然災害は一定の地域に差別なく襲いかかってくるが、風や大気の流れで予想もつかない降り注ぎ方をする放射能から逃れる手立ては今でも思いつかない。最大値 24.24 μシーベルト/毎時まで数値が上がった時の恐怖は、いまだにたやすくよみがえってくるのに、再び福島第一、第二原発で放射能事故が発生した時への対応策は『風向きに対して90度の角度で逃げる』くらいしか持ち合わせていない。知識や情報量が違えば、考えも行動もバラバラなままに、私たちは自己責任で自分の命を守らなくてはならない。

今年になって、ついに相双地区(福島県の太平洋沿岸部)の2つの町が中間貯蔵施設の設置と受け入れを決めた。3月13日から除染土が運びこまれる。最終処分場が決まらない限り置き続けることになるのだが、果たして私たち福島県民の覚悟は決まっているのだろうか。東京へ電気を送り続けた地域だったことを考えるとこの策に理不尽さは否めない。しかし、どこにどう訴えれば納得できる回答が手に入るのかと、考えることも諦めかけている。

昨年(2014年)の6月に富岡駅周辺を訪れた時、すでに3年経っていても放置されたがれきの山と、津波がさらっていったままの街並みに衝撃を

受けた。さらに9月に訪れた時には、富岡駅の向こう側の海岸部や富岡港の浜に黒いフレコンバックが積み上げられ始めていることに、何が始まるのかと不安になった。が、このたびの3.11のニュースによると、6、7段に積み上げられたフレコンバックが海岸をまるで堤防のように続いているのだ。福島の復興は田や畑、山、海岸が黒い袋で覆い尽くされることなのか、いやそんなはずはない。

2月に参加した「全国YWCA フェスタ in 沖縄」で、辺野古の沖で精力的に活動されている女性が「私たちは加害者です」と話したのに驚いた。理由をたずねると「イラク戦争の時、そして今に至るまで、戦争に飛び立つ戦闘機を止めることが出来ないから」とおっしゃる。私は原発立地県として「福島」は今回の原発事故の加害者だと感じ続けていることを伝えた。沖縄と福島は同じだと痛感した一瞬だった。加害者と被害者の立場はいつも危うい。

それぞれの立場で、持ち合わせるものは違うのだから、主張も求めるものも違うのは当然でいい。しかし、この体験を繰り返さないための学びとして「福島」を忘れないで欲しい。『せめて捨て石になりたい』繰り返し考えて5年目の春を迎えようとしている。



福島市中心部の仮置き場は今月中で搬入終了、手前の公園から見る

●● 第95回
神戸YWCA 定期会員集会

3月14日、37人の出席者を得、定期会員集会在開催された。開会礼拝では、湯口恵さんが95年にわたる神戸YWCAの歴史を簡潔に語ってくださり、先人の功績を讃えられた。若い会員たちも熱心に聞き入っていた。

理事会からは、今年度の財政は改善され収益は増えたこと、しかし補助金収入が多く、事業収入はむしろ減少しており、今後は寄付金を増やすことに力を入れたいと報告があった。

議事では、質疑応答を交えながら、事業報告、会計報告、事業計画案、予算案等が協議された。分室のガレージを「地域がであう場」として今後活用したいとの報告もあった。最後に近年、運営委員候補者が減少気味であり、神

戸YWCAの未来の担い手への参加の呼びかけで、閉会になった。

(池内 洋子)

●● わくわくフェスタ

定期会員集会の午後実施された「わくわくフェスタ」では、会場に楽しいおしゃべりと笑いがあふれた。

普段、自分の活動以外は、YWCAでの活動を直接知る機会が少ない。せっかくの中身の濃い活動も、メンバーのみにとどまってしまうがち。これはもったいない。他の活動も知ることによってYWCA全体の目指すものも理解できる。この機会にYWCAを知らない人も誘って、という企画。

ステージでは、様々な見せ場が用意された。初めて見る「ストーリーテリング」に引き付けられ、難民問題や憲法のクイズ、声の奉仕の報告

などではその問題をより身近に感じることができた。幻の「神戸YWCAの歌」を聞き、ここで学ぶ外国にルーツをもつ子どもたちの紹介もあった。また、ブースでは、各部やグループによる作成物、写真などの展示があり、あちこちでメンバーとのやりとりに花が咲いた。改めて共に歩むYWCAの会員同士という意識がもてた一日だった。参加者41人。

(斎藤 明子)

●● 世界祈禱日

2015年3月6日の世界祈禱日は、バハマからのメッセージ「わたしがあなたがたにしたことがわかるか」というテーマで、日本キリスト教団神戸栄光教会において、超教派の多くの姉妹たちと共に礼拝が行われた。

聖書の引用箇所は、ヨハネによる福音書13章1-17で、栄光教会の野田和人牧師により、神はイエスをとおして世の人々に愛を示された。弟子たちの足を洗うイエスの模範を用いて、私たちはバハマや自分自身の共同体において、イエスが示された愛を実践していくことが求められていることを教えられた。

今年は、福島原発事故の被災者に関わっているドイツから来日中のクルーガー宣教師も共に参加し、冊子を読まれ、国際的な世界祈禱日であった。(モーア アン)

神戸YWCA ビジョン
平和・地域・女性

- ・ 非核・非暴力による平和をつくる
- ・ 憲法をまもり、世界に広める
- ・ 誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指す
- ・ 若い女性が社会変革する力をつける

2015年度
神戸YWCA 活動目標

- ・ 若者が主人公になれる場をつくる
- ・ 神戸YWCAの活動を広く知らせる

2015年度
神戸YWCA 運営委員

井上序子、斎藤明子、谷合公江、
鶴崎祥子、西岡容子、野村春美、
宮田泰子

会長 鶴崎祥子
副会長 斎藤明子
書記 西岡容子
野村春美
宮田泰子
会計 谷合公江



キリスト者の心は

「日本にお帰りの日、私が第一に紹介したいと思ふのは此人である。此人の信仰に於てキリストと仏陀との別はなく、神と仏とは一つである。此人は久しい苦悶と久しい熟慮との後に今日の信仰を捕へた人である。」

魚住 折蘆

これは往時、ハワイに居た友人に宛てた魚住折蘆の手紙の一文である。

仏と神、仏陀とイエスはそれぞれ
の思想においても、両者の信仰
においても一つであるという。

生まれ、活躍したのは東洋
と西洋であったが、その精神
と迫力は抜群のものがあり、
多くの人々に愛され、慕われ
た人物であった。そして両者
のもたらしたものは世界の二
大宗教となった。それを簡明
に日本人が論じたのが、この
折蘆の書簡である。

魚住折蘆は一八八三年(明治
一六年)に兵庫県加古郡里村の
県会議員魚住逸平と妻隆子の次
男として生まれた。母里小学校、
姫路中学に学び、内村鑑三の思
想に傾倒。十八歳で上京、本郷
森川町に住み、デイスイプル派
の牧師宮崎八百吉(湖処子)か
ら洗礼を受ける。一高に入学、
校友会雑誌に「自殺論」を發表、
トルストイを愛読。

東京帝大の独文科から哲学科

に転じ、ケーベル、井上哲次郎、
綱島梁川らと共鳴し、やがて西
田天香に出会う。二十六歳で卒
論「カントの宗教哲学」を記し、
大学院で「西洋哲学に於ける解
脱問題の変遷」を研究。「美術
上の基督」を書く。阿部純子と
の結婚問題がおこるが結実しな
かった。

一九一〇年(明治四三年)九
月に西田天香を郷里に招き、深
い感銘を受ける。

求道一途であったこの人は
「墨染のころも着るに尚若し、
あやある衣は昨日ぬぎけり」と
いった心境の短歌も作ってい
る。人間愛を貫き、偏狭な日本
主義を排し、キリスト教的な世
界主義に徹しながら、親しいの
念をこめた人であった。

「目下の信仰を誰か確たる牧
師に告げておきたい。然らざ
れば吾去る後にこの信仰を伝
ふる者なし。」と述べたあと、
一九一〇年(明治四三年)に永
眠。いまだ二十七歳であった。

(笠原 芳光)

❖ YWCA フェスタ in 沖縄

2月14日から16日まで、沖縄で開かれたYWCAフェスタに参加させていただいた。

初日の分科会で私たち平和活動部は「人を惹きつけるアイデア—関心のない人にも関心をもってもらうために」と題したワークショップを担当した。平和憲法をまもろうという新聞広告を出すと仮定して、キャッチコピーを考えてもらったのだが、様々なアイデアが出てきて、有意義な時間をもつことができた。

翌日は3つのコースに分かれてのフィールドワーク。私は「竹富町・八重山教科書採択問題」に参加した。琉球大学の山口剛史さんの講演を聴いた後、首里城と沖縄平和祈念資料館を訪れた。山口さんが同行してガイドもしてくださったので、私たちは学びつつ見学できた。

資料館には泣き声もれないように赤ん坊の口を押さえる家族と、銃剣で威嚇する日本兵の像があるのだが、その銃剣が一時展示から取り去られたことや兵士の目線について説明していただいた。この目線では、兵士がまるで住民を米兵から守っているようにも感じられるのである。

歴史を修正するのではなく、真実を伝えることの大切さを知ったフィールドワークだった。

(寺沢 京子)

❖ 分室バザー

3月21日(土・祝)は、好天気にお恵まれた。ハレルヤ!! リニューアルしたガレージ・カフェや外売りの賑わいなど100人を越える笑顔の交流と目標額達成の収益を得た。

(谷合 公江)

セカンドハウス という「場」



差し入れのおにぎり。ありがとう!

3月の一夜、セカンドハウスに関わる人が集まって「セカンドナイト」を行なった。会場はセカンドハウス。数日前からここを利用している親子は、一年前に開催した神戸Yの保養キャンプの参加者で、大切な滞在の一夜を私たちのために取り分けてくれた。

楽しい時間を過ごしながらか、思う。起こってはならない出来事がきっかけで出会ったに過ぎない私たちだが、関わりを重ねさせていただく中で、悲しみやマイナスだけではない何かをも見出し出していけるなら、と。この4年間、セカンドハウスという「場」を支えてくださった全ての人に感謝した。

(西本 玲子)

神戸から平和を考える

河野康弘チャリティピアノコンサート



「ヴァーン!」力強い鍵盤をたたく音、まさしく「ピアノお目覚め」から始まった河野康弘さんの「ジャズ・ピアノコンサート」。

「ダイナミックなピアノ演奏、あんな弾き方があるんだと衝撃! 激しさがググッと迫って、心がピンピン〜!」「私もまたピアノが弾きたくなった。音楽の力を実感した。」という会場の声。

ピアノの合間のトークは、福島原発事故、放射能の怖ろしさを訴え、このピースコンサートが「核のない平和な世界を目指す」活動であることを認識し、その一言ひとことで本当に心が動かされた。

当日は2月11日、祝日にも関わらず親子の部、大人の部とも満席の約70人が来場。

コンサートでは大人も子どもも実際にピアノに触れて、河野さんとのジャズセッションを楽しめた一日であった。

(鶴崎 祥子)



神戸YWCAの会員になって四十年。講演会に参加、グループに参加、さらにバザーの委員として、寄贈品の依頼、物品の搬送と、私には初めての経験ばかりだったが、先輩方が親しくいろいろのことを教えてくださり、徐々に会員が主体で企画決定されていくYWCAの有り様を知ることができた。

幹部委員(今の運営委員)になつてからは、会員活動の様々な部門を担当。そして、全国集会に参加、中央委員として他市YWCAの方々と親しく意見を交わし、女性の自立と社会の変革など、一人ではできないことも、ともに考え働きかける大切さを知った。沖縄プロジェクトのメンバーとして沖縄に行き、伊江島の阿波根さんのお話を聞いて、戦争のない平和な世界を築くために互いを理解し、困難と努力を惜しまない姿勢に感銘した。その後沖縄にもYWCAが誕生し、繋がりをもちることができてうれしく思う。

YWCAは年齢差なく、それぞれのタレントを生かして交わることのできる場としてとても楽しいところだ。しかし時代の変化や世界を見つめる大切な役割は、より若い方々に手渡すことが願いだ。心からの感謝の気持ちこめて、これからを担っていただける方々にエールを贈りたい。

(片山 恵)

神戸YWCAへのおさそい

●文学講座

4月21日(火)・5月19日(火)
13時30分～15時30分

『徒然草』

講師 笠原芳光さん(京都精華大学名誉教授)
参加費 1,500円

●4月のアフタヌーン・ティー

「中東世界からの視点—『イスラム国』・『ユダヤ国』
のディアスポラ(難民・離散者)」
4月7日(火)

13時30分～16時

講師 村山盛忠さん(日本基督教団牧師)
参加費 800円

(注) 場所の記載のないものはすべて神戸YWCA 会館

Peace Bridge (ピース・ブリッジ)

新年度に向けて「ピース・ブリッジ」というグループを立ち上げました。すでに二度会を開いていて今度は三回目。若者中心の会になりそう、神戸YWCAにとって新たな1ページになるかな、と楽しみにしています。特に若い方々、ぜひ参加してくださいね!

4月10日(金) 6時30分～神戸市青少年会館で、『女性たちの貧困—新たな連鎖の衝撃』(幻冬舎)を各自読んできて話し合います(今回は第2章)。(寺沢 京子)

会費納入のご案内

2015年度(2015年4月～2016年3月)会費・会友費のお支払いをお願いします。

2014年度の会費が未納の方は、併せてお納めください。

*特別な事情により会費の支払いが困難な場合は、「年会費減額制度」がありますので、事務局にご相談ください。



■ 学院だより

新年度を迎え、日本語教師養成コースでは、「日本語教師養成講座(420時間コース)」の7月開講に向け、準備を進めている。

新カリキュラムでは、実践力・人間力のある日本語教師を養成するため、日本語や日本語教育の基礎知識に加え、社会への広い視野を持つための学びや、翌7月には教育実習を組み込んでいる。日本語コース等で学ぶ在住外国人との交流プログラムがあるのは神戸YWCAならではの、である。

グローバルに人が行き来する社会で、日本語教育は今後ますます必要とされるだろう。(学院長 寺内 真子)

■ まごの手だより

2015年4月の法改正では、要支援者等の高齢者の多様なニーズに地域全体で応えていくために、予防給付の訪問と通所介護が地域の実情に応じて、市町村が実施する新しい総合事業へと移行する。

2015年度は今までとサービスは変わらない。配食、会食、居場所づくりが今後必要とされている。また、地域包括ケアシステムの実現に向け、物価の動向等を踏まえ、2.27%

減の報酬改定となった。在宅生活を支えるためのサービスの充実、質の高い介護サービスの取り組みが必要とされている。

(松田 恵美子)

■ 分室だより

分室のガレージが変わった。壁に白いペンキが塗られ、天井には、スポットライトがついて明るくなった。

「地域がであう場づくり」プロジェクトのメンバーにランチのボランティアも加わって作業した。厳寒の2月毎週火曜日に、初めての者ばかりが集まり、何度もペンキを塗り重ねた。出来栄は分室バザーで披露した。4月からはオープンスペースとして多くの人に使ってもらいたいと考えている。(大江 雅子)

■ 運営委員会報告

(1月)【議事】指名委員会からの報告▶組織について▶各部・各グループの事業計画と予算の確認。

(2月)【議事】定期会員集会にむけて▶次世代プロジェクトについて▶リトリートをうけて理事会との意見交換。

(3月)【議事】2014年度活動のふりかえりと2015年度へ

の申し送り事項の確認▶三役選挙および各部担当者の決定。(西本 玲子)

■ 理事会報告

2月7日(土) 第4回理事会開催。出席理事7人、監事1人。2015年度事業計画案と予算案について協議。(寺内 真子)

■ 賛助員

加納 花枝 (敬称略)

■ 編集後記

敗戦後70年の節目の年。日本はどうか?不安いっぱいスタートである。

(S・T)

世界YWCA デイ 2015

「世代を超えたリーダーシップ」

今年も世界YWCA デイを祝って、神戸YWCAで活動する女性たちが、それぞれの経験や想いを共有し、「一緒に活動する仲間」としてお互いのリーダーシップを称えあう軽食会を実施します。ぜひご参加ください!

日時: 2015年4月18日(土)
11:00～12:30

場所: 神戸YWCA 5階チャペル

参加費: 1,000円(軽食込み)

主催・お問い合わせ: 国際相互支援部



世界YWCA デイとは?

世界125カ国のYWCAで活動する女性や少女たちが、正義、健康、人間の尊厳、自由、環境問題について「一つのグローバル(世界的)な運動」に参加しているということを再認識し、ともに女性たちのリーダーシップを称える日(4月24日)として1947年に始まりました。



ゴーフル®

いいものは時代をこえて
生き続けます

神戸且月堂

本社 神戸市中央区元町通3丁目3-10 TEL(078)321-5555
URL <http://www.kobe-fugetsudo.co.jp>



(有) 佐野葬祭

代表取締役 佐野 睦 (日本基督教団 甲東教会会員)

いーく に みくに

0120-592-392 (24時間受付)

宗教を問わずあらゆるお葬儀をプロデュースさせていただきます

尼崎市潮江4丁目2-2
URL: <http://sanosousai.com>